

---

# 地下鉄の手記

NancyBill

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

地下鉄の手記

### 【著者名】

N3721X

### 【作者名】

NancyB.11

### 【あらすじ】

ポエム日記です。帰りの電車でかんがえています

ゆめのなかへ（前書き）

「わたしは逃げた」

## ゆめのなかへ

探しものはなんですか

それは、見つけにくいものですか  
かばんの中も、机のなかも、これまでの人生も、さがしたけれど見  
つからないものなのに

それでも探しものはとまらない

お勤めを止めることは許されない

自由に歌つて、踊つて、楽しむことは許されない

そんなふうに這いつくばりまで、一体何をさがしているんですか

さがすのを止めたとき、見つかることがあるかもしないのに  
わたしたちの欲しいものは、欲しがっているときには触れることが  
できない

でも

夢の中ににげないで。

夢の中で踊っている人たちは、とてもやさしく人たちだけぞ  
夢の中にはにげないで。

## ゆめのなかへ（後書き）

わたしの表現したいものは、99%の絶望（のよひなもの）。のこり1%が希望であつたなら、もう少し文章として収まりやすいかもしない  
でも違う。100%でもない。ただ単に99%の絶望  
わたしが主観として見ているこの世そのもの

ペニーロイヤル＝ルクテイー（前書き）

「ペニーロイヤル＝ルクテイー」

## ペニーロイヤルミルクティー

チェアに座つて、ゆづくりと飲む。コーヒーを。じつしている間にも、僕の背中や腰の筋は痛み、骨は一ミクロンづつ曲がっていく。

あぐらを搔いて、ゆづくりと飲む。コーヒーを。

こつじている間にも、僕の血流はとまり、筋組織はおとろえていく。

ゆづくりとゆづくりと僕らを飲み込んでいくもの  
それは大きくて、広くて、感触がなくて、色もない。

それは社会そのものじゃないか

確固たる偏見をもち、のろのろと体中でたらめに動いて、慈悲がない。

人を人たらしめているのはこれの所為だらつと思つたが、何かがひつかかる。

そんな1日でした。

ペニーロイヤルミルクティー（後書き）

サムシング・イン・ザ・ウェイ

ポエミーブル（前書き）

「ポエミーブル」

## ポエミーフルー

今日も澄み渡る青空のように、わたしはひとり  
ふと、空を見上げてみたとき、なぜだかこう思わないだろつか

ここにはわたししかいない、と

あれはきっと、心の乖離

絶望するほど空は深く、悲しくなるほど美しい

明日も敷き詰められていく雲のように、わたしはひとり  
空は非情にも、私の間隙を埋めてはくれない

1人は寂しいものだけど、寂しいことはつらいことではない  
2人は楽しいことだけど、楽しいことは寂しさに変わる  
3人は半端なものだけど、寂しくはない。

明後日も明々後日も、わたしはひとり

## ポエミーブル（後書き）

ふじこへミング演奏、ラブソーティ・イン・ブルーな感じのBGMで。

欲（前書き）

「欲、または夢」

## 欲

小さな頃、わたしはテレビゲームがほしくて仕方がなかつた  
わたしは特別な存在で、いつか魔法が使えるようになると信じていた

わたしは英雄と呼ばれて、見目麗しく、栄華にふるまい、そして強  
者だった

わたしは今でもきっとこの願いを持ち続けている  
諦めが同居するようになつてしまつたけれど

わたしは、わたしの為にゲームを買い求め続けた  
数え切れないほどのゲーム機とソフト

これが現実と折り合ひをつけた年少だったわたしの夢

そして今では、一生の時間をかけてもクリアしきれないほどのゲー  
ムの束

わたしは、ほんとうにこれを望んだのか。望んでいたのか

違う。これは違うと思つ。

ひとつ確かなことは、これがわたしの夢でした

## 欲（後書き）

買い物なんてやめよ  
プレゼントなんてやめよ  
贈る相手がいるのなら、そんなことよりも共に遊びに行  
愛しさと優しさは、物価に変換できるものでは決してないはずだ

「プレペラートぼく（前書き）」

「プレペラートぼく」

## プレパーティーぼく

「どうしたの、ぼく？」

「ぼく？ がたまらなく嫌だったことを覚えている

子供の意見は黙殺される。それは当然だけれど大人同時の話し合いで子供はただ邪魔なんだ。

それがとても嫌だったことを覚えている

子供の、あの無垢そうな目線がある

親の肩越しとか、車の後部座席の決してそらされないあの瞳

あの目は何も考へていないと同時に、自分の「思い通りにならなさ」を

すくない語彙で「／＼もしくは、それと全く違うチャンネルで

考へているんだと思う。

子供は、自分がどうすれば大人に喜んで貰えるかを知つている

「ほら、バイバイ」

と言わされたら

「ばいばい」

と言つて手を振ればいいんだ

それはこれから少年期の大きいなる増長の始まりで、誰もが通る道だろう

女の子が、私に手を振つてきた

私は、圧倒的な偏見と確信を持って、無視した  
あの不思議そうな瞳から、何が生まれただろうか

## プレパーティー（後書き）

2年前のパーティーから

女の子は、もう小学生くらいかな  
とても可愛かったと記憶している

Fitte rabi-mo kagezuma mame (記書モ)

「フィッター函モ負ケズハッピア」

雨一モ負ケズ よく順応し

幸福を得、よい生産性。

酒は適量に押さえ、ジムで適量の運動。

同僚と気を置かず、時代に流されない。

冷凍食品と動物性脂肪を控え、適量を食す。

無事故無違反の忍耐強い性分と、チェック万全の車チヤイルドシートも忘れない。

被害妄想や偏見とは無縁で、毎日心地よく眠る。クモを排水溝に流したりはしない。

時折旧友と語らい、大切にし

通帳の残高を確認する事と、晴れの日にはすすんで洗車をする事が週末の日課。

愛想よく振る舞い、立ち入り過ぎない。

福祉の理念を持ち、スーパーへは自転車で。

蛾にシャワーをかけたりはせず、窓から外に逃がす。

暗がりも怪談話も怯えたりしない。

誰でも十代ほど馬鹿げていて愚かで

思い出し赤面しない人はいない

仕事に精を出し、無力でも社会に关心を失わず一員であることを心がける。

綿密に計画を立て、継続し力にする。

辛くとも逃避せず、人前で涙を見せず。

健康に気をつかい

雪の日にはタイヤを履きかえる。

財布には家族の写真。

記憶力に優れていて

良質な映画には今でも感動する。

虚無感や怒りとはオサラバして  
シフトレバーを切り替える。

自分に楽しみを見出し、弱者をあざ笑う能力に長ける。  
良く順応し、よりよい幸福、より良い生産性。

畜生

檻の中の畜生

抗生物質漬けの畜生

そんな人間に、私はなりたい

Fitter, Happier (後書き)  
モ負ケズハッピーラジオヘッド

Radioheadを意訳したです

## サル砂漠（前書き）

「サル砂漠あるいは、緑化活動」

## サル砂漠

さる教授が酒の席で、ぼそりと漏らした

「若者にもの教えるのは、砂漠に水を撒くようなものです。」

これは、なんだかものすごい表現だ。

いつもいつも社会は荒れに荒れて、猿みたいな若者の砂漠が広がっている

ずっと続していくかもしれないと錯覚してしまつ、繰り返し

それでもつて、汎用と凡庸な我々は水の大切さと重々しさをよく知つてゐる

これを読んでいる諸君と私は、さながら水はけの良い台地さあ、お水をいっぱい飲もう。沢山の知識と経験を。

…だけど、すぐに抜けていつてしまつのでした  
それでいいような気もするんだけどね

## 腹の虫（前書き）

「腹の虫・アゲイン」

「腹の虫」って何ですか。それはファーストフード的現代小説風に言つとメタファーとかベーコンとか言つむのですか。

「腹の虫キリギリス」は言つた。

「僕には貯蓄が無いじゃないか。アリの巣を再襲撃する。そうしなければいけないような気になつてくると、それが正しいことのように思えるのは、なんら不思議ではない。システム化された社会は、それ自体が大きな川の流れのように、宿命といつていよい程の予定調和を持っている。

僕はその縮図であり、また全体の一部である。つまり、これは僕の意思という、社会の大きな概念的流れなのである。」

「腹の虫あり」は言つた。

「その前に、君は存在するのかい？我々ありの巣公共財団の結論を言つと、確かに概念的 existence は概念的なところに存在するけれど、ファーストフード的に言つて唯物論を法の指標としている

る

我々にとって、君は存在しないのだよ。それを社会の流れといふ存在しない概念的存在の社会の流れに乗つて便乗しようとする君の行為は、愚かでしかない。君にできることと言えば、せいぜい物乞いだろう。責任を引き取つて、メタファーに押しつぶされるがいい。」

と僕の腹の虫たちは言つた。朝から何も食べていないのだ

## 腹の虫（後書き）

3年前の私は、もう私ではないのだろうか？

ペンネのグラタン（福井県）

「えびのグラタン」

## ペンネのグラタン

マカロニグラタンは一体どこのままでがマカロニでグラタンなのであるうか。

それはあなた自身が定義を見出しじゃ答えばおのずと出る。

玉蜀黍はなんと読むのであるうか。そう、マカロニグラタンだ。名前と互換性にはそれほど関連はない。郡山駅が岡山駅に移つても、

それは岡山駅であるべきだし、番号でよんでも差し支えはない。ただ位置が固定されているだけである。

もし僕が706の数列であるとするならば、706は僕の名前の定義である。

名前は物にではなく、その目的性による。海老のグラタンを(a)と呼んで、

パエリアを(b)と呼ぶ。

(a) = 5 6 6 6 6 6 6

(b) = 5 6 6 6 6 6 6

かもしれない。

A B 海老には、グラタンが入つていて、パエリアは何だか分からぬ。

互換性は、たぶんある。 $2 =$  になつても虚無である。

2、23、24、258、3444、前に進め。

だから、アウシュビッツ収容所があつたのかもねん。

哲学の義務とは、誤解によつて生じた幻想を排除することにある

それが一体何の役に立つのか分からぬが、考えていたことは

大体とりとめのない、そんな引用ばかりだった。

朝、起きたら私は虫になっていた。

時計を見ればもう七時半を過ぎる頃で、やれやれ、[冗談じゃないぞ、  
もつ飛行機は行ってしまったじゃないか、と思つた。

一番頭に近い足は今までの手の感覚でどうにか動いたが、他の足ど  
もは

焦点の合わないレンズみたいにもぐもぐと動いていた。

まあいい、私にも休みが必要だ、などと考えつつ、掛け布団を足  
(だつた)の方向へ  
すらしたあとで気がついた。起き上がりはないではないか。体を横に  
転がす必要があるが、

そうなるとベットから落ちる。この細い足どもがもげるかもしれない  
い。

掛け布団は横に落とすべきだったのだ。  
首だけがどうにか動き、腹のところにある紫の斑点を確認しただけ  
だった。

ずっとそのままの姿勢で、私はこれまでの人生を振り返った。

そもそも私は働きたくないなんかないのだ。何か一つでも生み出したも  
の  
があつただらうか。何もない、ゼロだ。いままでしてしたこととい  
えば、  
移動とただ通り過ぎることだけだ。そんなもの、人生と言えるのだ  
らうか。

仕事は真面目にやつてきたつもりだが、愛想がないので、誰の話題  
にも  
のぼる」とはないし、昇進も望めなかつた。レポート用紙一枚で済  
んでしまつ

凡庸な人生だったのだ。

八時をまわる頃、まだ寝ているのか、仕事はいいのかとドアノックに妹が声を掛けってきた。

ああ休みだ、今日は休みだ、経済は自由意志を持つていいよ、と返事をしたつもり

だつたがそうもいかず、妹はそれきりドアから離れて「いつ言った

「定義を先立たせるのか、言葉から入るのか。」

死の行進と呼ぶべき追い込み残業も一段落し、家に帰つてすぐ寝床に就くと、奇妙な夢を見た。それはアインシュタインも首をかしげるほどの座標の乱れであり、時間軸の乱立であった。

私は向き合つた二人の男の真ん中にいた。日なたに一人、日かげにもう一人。

私の視界の先には、それが三次元的に交錯していた。

二人の会話を聞くことにする。

日かげの男が言つ。

君は夢をみていられるのか。世界を救おうと思うほどに。

真実は誤解を生み、幻想は誤解を生み、知識は誤解を生む。

君は傲慢だ。愚かだ。何も考えちゃいない。

日なたの男が答える。

定義の問題だ、きみはたとえば認識の崩壊を意識することがあるかい。

過去に読んだ本を思い出し、自分で物語を再現すること。この意味

に

当てはまる言葉を、ここでは誰も知らない。だからきみは、いつまでも

そんな所にいて、間違った計算表をまがめているのさ。

私が間違っているだと。関係の中に存在するものに、君が判断を下すことはない。

きみが下すものでもない。きみの真理とは、わたしにとつては傲慢だ。

ではこいつよ。いつかたずが5になることに君が田を背けたとき、

君が構成されている証明が機能しなくなる。君は虫畜生になつて、私に

永遠に追い掛け回される。そいつよ、そいつよ。

田が覚めたときに、やはり夢でも自分に似て、なんて内容がないのだろう、と思った。

んで何が言いたいのかと云ひと、あなたが幾ばくか馬鹿にしたところの  
ある他人に關り、顔見知りになつたとき、それほど捨てたもので  
ない、  
と感じるだろう。他人と言つものは他人の集合体を一つと  
みなした代替の呼称である。

あなた	5
他人	4
	7
	7
	3

と個性を数値に置き換える。一つの項目でも数値が大きければ、あなたは他人を隠れて馬鹿にする。全てが自身より劣つて見えるのだ。

しかし他人とは集合体であることを忘れてはならない。平均値というものは、計算してみれば分かることだが、（要素  $a$  個の数値が大きいほど）予想に反して低い値になるものだ。

## ペンネのグラタン（後書き）

…？なんだこの文章

まともに残っている文章がもうない  
私が生きてきた中でたったこれだけだった  
私のじんせいは他の人よりもさらにからっぽのようだ

FOG (前書き)

「霧、Did you go bad」

冷蔵庫の野菜は  
どんぐりからびでいく

週のはじめに貰つてきた魚は  
いまや臭氣がたちにめている

だけだと水道に捨てられたワニガメは  
どんぐり大きくなる。グロウ・アップ・ファースト

でかい魚は小さい魚を食つ

優しかつたばあちゃんは死んで  
わが社の監査役は子会社に下つた

わたしの世界は、つまくいかなかつた  
あなたの世界は、つまくいつていてるか

事象のパーセンテージは

合計100%にならなくてはいけないのに

わたしの見る世界は

それを満たしていなによつに感じる

うまくいかなかつたのかい  
うまくいかなかつたのかい?

## FOG (後書き)

「つよい」メロディーの感じを文章にしてみた

## 「便宜と欺瞞のすくそば」(前書き)

「便宜と欺瞞のすくそば」

## 便宜と欺瞞のすぐそば

今日はもう終わってしまって、日付が変更される。

夜が払拭されてくれれば、私たちはクリアになるだろう

いつだつて私たちは「あるもの」を確認し、参照する。

時間と日付は、どこからやつてくるのだろう

答えのないものを考えるのはしようがなことだけど  
無駄なことではきっとない

便宜と欺瞞を履き違えた社会は、もう長くは続かない  
時間は便宜に存在して

欺瞞は人間に存在するものだから

私たちはいつまで社会に欺かれてしまうのだろう

私たちの思う便宜は、私たちの欺瞞にも変わらずに優しいままだと  
いふのに

日はまた昇り、沈んでいく

枯れ葉は散り、新縁はゆかしい。

そして人は年老い、死んでいく

## 便宜と欺瞞のすぐそばに（後書き）

時間は人が作ったものだけど、その基は元からあるんじゃないかな

書の讀書はせぬひつこり（漫書也）

「名利に使はれて閑かなることめなぐ」

## 昔の情景にも色々ついてくる

名利が多ければ多いほど災いも多い  
身を守ることすら難しくなる

そんなものならば、わざと投げ出してしまつのも間違いではない

名利にこだわるとは、外聞にこだわることである  
然してそれは見栄をはり、嘘つきのはじまりだ

結局は煩惱の積み重ねでしかなく、才能や学んだことでも  
それの一端になつていないのである

善も悪も、有も無も根本は同じものであり  
そんなものはないと悟るほうがよほど教養らしい。

まことの人とは、知も、徳も、功も、名も、特に欲しがらない  
賢しいとか愚かとか、得とか損とかいう境地にはいないのだ。

迷いにとらわれながら名利を求めることはよつ空しくなるだけであ  
つて、

その是非すら論じるに値しないことだ

昔の情景にも色はつこむこと（後書き）

徒然草から抜粋、意訳です

文字色を調整しています。見にくかったり、目が痛くなったりしたら  
ご一報ください。

ダンス・イン・ザ・ロッキーチーン（前書き）

世界を売った男

## ダンス・イン・ザ・ロッキーチーン

10代の頃を思い返す  
私は何と視野がなく、外聞ばかりにして、愚かなことをしたのだ  
ろう

そんな愚かな世代は誰にでもあったということは分かっているが、  
なぜこんなにも人の言つことに耳を貸さなかつたのだらう  
私の友達。いまではもう、私を通り過ぎて行つてしまつた  
環境が変わるということは、友達が変わるということ  
ならば友達のいない私には  
もう差し出せるものが無い。

私の友達。買い取られた男へ  
夢と希望にありふれた私の友達へ。  
きみはアメリカに行くんだね、でも忘れないでほしい  
帰るに帰れなくなり、シャブ漬けになつてゐる私の友達がいることを  
私の友達。世界を売つた男へ  
運動が得意で、いつも面白い私の友達へ。  
きみの体は車輪の奥で見つかつた  
首から上はもう、見つからないだらう  
私の友達。

ダンス・イン・ザ・ロッキーチーン（後書き）

アンプラグド・ニューヨーク最後の方

ブラック・スターに責任を（前書き）

「ブラック・スターに責任を」

## ブラック・スターに責任を

ゴミ処理場みたいに、満腹な心。

そんなもので満たされてしまつた君は、もう癒えることはないだろつ  
日々の仕事はゆつくりと、確実に、君を殺している

疲れ果てて、憂い顔な君たち

君達は一体、何を倒せばよいのだひつ

資本か、それとも政府か。

救世主はいつまでたつても訪れない。

先人たち、きみの先生たちは  
きみに二酸化炭素どころか、一酸化炭素とダイオキシンまで押し付  
けて逃げていつた

もう、いいでしょ。

君だけではない。

君のせいでもない。

きみは、最後のやせしと、最後の憤慨を見せるはずだ

やさしいお父さん。優しいお母さんと一緒に  
ずっと暮らしていきたかった。

もう、いいよ。

誰のせいでもない。

全ては、そう、例えば、夜空に光るあの星がいけないんだ、悪いん

だ。

ブラック・スターに責任を（後書き）  
(alt書き)

ドッキングした

プリティーハーモン(福井県)

「オーフリーハーモン」

## プリティイウーマン

お土産とおにぎりを奪つ猿の姿を思い出してください

奪われる人は社長さんで  
猿はわたしと君のことだ

思い出してください。

奪っているのは私たちではない  
奪われているのは、私たちのほうだ。

形骸となつて肥える社会は  
私たちから、担保を奪つていく。

もしかすると。

私たちが良かれと思つて。

奪つているものは、債務ではないのか

恐ろしい、私たちは何を奪えればいいのか  
一体何を奪えればようやく幸せになれるのか

私たちから奪つていく人たちは  
あんなにも幸せそうなのに

プリティーワーマン（後書き）

ベベベベーン

走ってこまですか（複数形）

「 ちかんと歩めてこまですか」

## 走っていますか

それは今日の朝

走っている人を見かけました

その人は健康です、繰り返します、その人は大学生みたいで

ランニングではない

信号が変わりそ่งとか、やくざに追われているとか、そんな急いで  
る走行

その人は、運動不足だった

全身の筋肉がとても無くて、姿勢が悪くなつて、とても遅かつた  
腕を最適ふることができない、奇形のような走りかた

動物として生まれ、健常に育ち、通常に生きてきたのであらうに  
どうしてこうなつてしまつたのか  
どうしてこうなつてしまつのか

それがその人にとって最適な生き方であるから

誰も悪くない

誰も何も言えることはない

これはただの私の蔑みだ。

それでも

その人の走り方を見ていると

社会は、それを生きていかざるを得ない人たちは、やつぱりおかし

い。

ゆがんでいるんだ。

走っていますか（後書き）

と、ほんきでおもつてこらかま

私の女子（前書き）

「マイ・ガール・フー・ソールド・ザ・ワールド」

## 私の女のト

わたしのかわいい女の子  
昨日はどこで夜を越したのですか

わたしが後々のために、宝探しをしていました  
その時どこで夜を越したのですか

冷たい岩肌、毛布を敷いてわたしは眠りました  
隣の人びとは、岩盤が崩落して死んでいました

わたしのかわいい女の子  
昨日はどこで夜を越したのですか

わたしの頬骨が割れてしまつたとき  
だれと腰を振つていたのですか

冷たい洞窟、その日も月に抱かれて眠りました  
夢に来てくれていたんだね

わたしのかわいい女の子  
きみの為に、わたしはここまで來たんだ

わたしがようやく帰れたとき  
きみはお母さんになつていて  
幸せそうに、笑っていたね



魔王（前書き）

わが子

## 魔王

生家のベッドに 痩せこけた息子がいる  
時折血を吐き出し 苦じむときは もつまへなことを物語つてこの  
父は俯きがちに 息子の手を握つている

「息子よ どうしてここに来たんだ？」

「お父さん 病魔がぼくを蝕み ぼくは神に呪われるとそれがきて  
る。  
でも怖いんだ。こんな苦しみを だれにも伝えたくはなんてない」

「息子よ お前はただの風邪じゃ

「かわいい、さりや おこでよ おもしろい遊びをしよう  
」ひたひた きれいな花咲く三層があるんだよ  
さりの着たこおべべもたべたあるよ

「お父さん お父さん 覚えておこでじょつか。  
幼少のみぎり何時もびいかへ連れてつとせがみ 服を買つてと  
ねだつていたことを」

「息子よ 周りのものが勝手に騒いでいるだけじゃ お前が死んで  
しまつた」

「まつや こいつはお出でよ 用意はとび出来てこの  
我が家と酒を飲み 踊り やして夜を共にするのも良こ  
いからすこと」ひだよ わおお出で」

「お父さん お父さん！ しつかりなさつて下せ  
ぜべの体せもつだめです 自分のことです よくわかつてます」

「息子よ お前を愛しておるが お前は死んだつなどせん 絶対だ」

「かわいくて いい子だの ほひゅ じたばたしても わらうへ  
ぞ」

「お父さん お父さん びつかお嘆きにならなこで。ぜべのた  
めにやんなことをしないでー。」

父のじるの わななきつ 息子の喉を切り裂く  
ふるえる我が子を抱きしめ むせび泣く

子は既に息絶えぬ

魔王（後書き）

D u      l i e b e s      K i n d ,  
m i r                          k o m m ,  
    g e h  
    m i t

ペーパードリップ(前書き)

「サイフォーン」

わたしあなたになる「ホールキエキセルサの子供であります

必死にHシジにつかまつて、雨にも風にも耐えてきました  
辛かつたけど、今にして思えば本当にしあわせで、至福のときだ  
りました

親元をはなれ、さあ立しよつとこつとわい、  
わたしは外国へと連れ去られてしまひました

一束三文にもならぬ貨幣で身請けられ  
わたしの身は熱い鉄板にさらされてしまひました

たくさんの仲間たちと一緒に励ましあい  
熱い、熱いあのこひを過ごしてしまひました

そしてよつやく血口を確立した大人になつたと言えるよつとなり  
わたしは血口を思索しながら、仕事をするようになつました

わたしの身は日々にすつ瀆されてしまひます  
わたしはやがて地に帰り、感慨なく生を忘れてゆくでしょう

あるいは死してもなお、もしくは生きることをやめたとき  
わたしは洪水にひきられて、最後の希望と香つをしほりられるのかも  
しません

わたしがこま左手に持つてこる

ネルドリップのコーヒーのように

ペーパードリップ（後書き）

たいやあと井に

「ルロル」  
（福井）

おおくのひとが感じぬやうに、さみも感じないだれつか

「前は、もつと楽しかったのに」

わたしも同様に感じてこむ

前は本当に夢中になつて、樂しくやれていたのに。

さみは、さみの興味の、ふりかけを広げずさしてしまつたんだ  
仕事を手広くやつすれたとか、そんなすうじの話ではない

単にさみの頭の机が散らかりすせてしまつたんだ  
さあやるべ、と机においても

ぼとつと床に落ちて、せりりと被つてしまつ

もつさみの机は、でかいものに取り換えることはできない

整理しようにも、一時置場も一杯だ

そしてこらなこものなど何一つとしてない

いや、たいしたことのないものだからこそ、捨てるにも及ばない

興味が、別の興味を浸透し、殺してしまつ

前は夢中でのめり込んで、本当に樂しいものだつたのに

机には「ミが堆積し、愚者の塔の完成だ

落雷と津波に洗い流されるその日まで

ロールプレイングゲーム（前書き）

TRPG

## ロールプレイングゲーム

わたしは何にならう

そう、わたしはドリゴンだ。強く誇り高い竜にわたしになりたい

きみは何になるのかな

そつか、きみは学者の魔法使いにするんだね

きみは正義に所属するんだね

じゃあ僕は悪にじょう。そのまゝが面白い物語になるものね

サイコロをふる。出た田は外れ。

でもドリゴンは強いんだ。ひとりで世界の端までだって行けるぞ

きみはサイコロをふる。出た田は当たり。

きみはあまり動けないんだね。正義の味方も大変だ

サイコロをふる。出た田は外れ。

きみに遭遇したけど、きみは逃げてしまつたね  
もつと楽しもうよ、もつとワクワクしたいのに

きみはサイコロをふる。出た田は当たり。

わたしあきみと、きみの仲間に囲まれて、殺されてしまつた

「樂ひせみんな生れこむ（前書き）

「生れこむから向こも憚りぬかて歌つんだ

## 僕らはみんな生きている

僕らはみんな生きている、生きているから歌つんだ

わたしは仕事をします、  
わたしは仕事をします、  
わたしは仕事をします。

何かおかしいのではないか

いや、何もおかしくはないけれど、きっと何かが引っかかる  
わたしのお金は、流しそうめんのではないだろうか  
わたしはお腹をすかせて口をひらげて待っているのに  
何もすべり込んでは来ない

もう流しそうめんも凍りはじめている

これから氷河が再来するぞ

氷河時代がやつてくるんだ

お金をできるだけ溜め込んでおくんだ  
はやく銀行から金を下ろせ、一銭も残さずだ

乗り遅れるな

我々が一斉にそれを行えば、よつやく社会を殺せる  
わたしたちだつて、やればできるんだ

僕らはみんな生きているんだ、生きているから憚らずに歌つんだ

僕ひはみんな生きてこる（後書き）

強い気持ちを込めて歌うんだ

誰も僕を責めない」とはやきなこ（前書き）

僕にその手を汚せといつのか

## 誰も僕を責めないとはできない

1995年10月23日、SFC用ソフト「タクティクスオウガ」にて

私は敵国領の収容所にいる自国民を虐殺し、敵国の残虐性のねつ造をすることを選びました。

これがずっと忘れられません。

当時の私は、何故この決断をしたのでしょうか  
自国民の戦意高揚や、命の数の天秤は  
考えれば考えるほど、正義も、大義も無く、理由としても成り立つ  
ていないのに

現在の私は、殆どその決断はしないでしう  
なぜならば「やりたくないから」です。

これには大義も、正義もあり、理由としても成立するのではないで  
しょうか

どんなに言い繕つても、どこまでも世界の中心は自分自身です。  
社会的な、大きな流れに囚われた自身は、けつして「自分」とは呼  
べません

どうか盲田にはならないで

「人のため」と思い「自分のため」にやることは  
「それを行つてほしい」と曰謫む別の誰かがいるのです。

どうか独善的にはならないで

自分のために、自分のやりたいことをやつしてください

ひたすらに利益を狙うのも考え方のだけれど  
絶対に自分が損をしないものを決断してください  
正直それがいちばんありがたい、他人から見て。

誰も僕を責める」とはできない（後書き）

欺き欺かれて

底の無い鞄（前書き）

「安物の靴」

## 底の無い鞄

右へ左へ、上りに下りと、入つたり来たり。

わたしは歩き回りました

鞄は、わたしの足の裏をかばってくれてゐるはずなのに  
浅い鞄底は、不親切なコンクリートと結託して、  
わたしのそれを責め立てる  
わたしの体重すら利用して、長い時間をかけて、  
じっくりと酔つるつもりなのだ

右から左へ、上がつたり下がつたり、出たり入つたり。

わたしはお金を払つてしまつた

安物の財布には小銭を入れるところがないので  
安物のスラックスのポケットに入れた

ポケットはわたしの財産を守つてくれるはずなのに  
その薄い生地は、わたしの信用よりも、容易く破れてしまつた  
不親切なコンクリートは、わたしの小銭を拡散させ、  
雑踏に飲み込まれてしまつた

消費志向で安価を求める高級で高尚な社会は  
一体きみのために何をしてくれただろう

たぶん何もしてくれないだろつ

底の無い鞄（後書き）

安物な社会

マイ・ネーム・イズ(前書き)

「すりむし」といへ

## マイ・ネーム・イズ

ハイ、キッズ！

バイオレンスものは好き？（ヤー！ヤー！ヤー！）

それじゃあ半世紀かけて、ゆっくりと体をすりこぎにされる類の暴力なんかどう？（アーハー？）

他人のプライバシーを覗き込むんだ  
ただでさえ他人は醜いのに  
プライバシーに入り込んだ他人は  
もつと劣悪になるぞ

他人の名前にセンスのなさを感じるんだ  
必ずいい意味の語が一字入つていて  
優さんは優しいのかい？賢さんは賢しらなのかい？  
(雄くんは勇ましくないし、翼くんの視野は狭いよ…)

ヘイ、ボーアズ！

勝負ことは好き？（ヤー！）

それに勝つことは？（モア！モア！）

君の名前を教えてくれ

君は自分を鏡で見たことも無いのに

どうして他人より優れているなんて思うんだい？

僕の名前はやせつぽちの影法師だ

さあ、帰つてママに聞いてみな

どうして僕に、こんな名前をつけたのかつて

そうすると君は、君のママの喉を切り裂いて  
そこでファックしながら、生まれたときのようつ  
泣きたくなるんだろう

ウイー・オール・リブ・イン・ア（前書き）

イヒローサブマリン、イヒローサブマリン、イヒローサブマリン

## ウイー・オール・リブ・イン・ア

僕たちは密閉されているんだ  
すぐには空氣もなくなつてしまつ

だけど社会から抜け出して  
一体どうやって生きていけばいいのか

まるで、潜水艦の中。

僕たちは皆、潜水艦の中で生きているんだ。

臭くて、やたらといるそこから  
いつも狭くて、他人と遠慮しあつて、邪魔しあつて、足を引っ張り  
合ひ  
もう、こじごりなんだよ  
皆、嫌気がさしているんだ。

だけど、潜水艦からは出られない

皆、実は息をすることがとても好きなんだ。

潜水艦から出て、息のできる人は少ない。

ほとんどの人が生きるすべを失い、途方にくれるだろう  
皆のきらいな他人たちは死んでしまう

だからこそ僕は、

この黄色い潜水艦を停止させることにしたんだ。

ここを捨つこれらの子供たちを、もう生まない。  
僕の子供たちだけには、こんな思いさせるものか

僕は立ち上がる

僕の子供たちだけには、こんな思いさせるものか

前書き（前書き）

ヘッジヘリヤード・ルーハリヤード

## 背に乗つて

私たちの本懐

慮ることのない黄金の穂波

みんな何処に行つた

見送られることもなく

銀の竜の背に乗つて

そこからの展望を美しいと感じられればいい  
でも美しいと感じた瞬間には、その本懐はもう終わつてしまつて  
るんだ

きみときみの本懐との間に

今日も冷たい雨が降る

きみはきみが為になる本懐の為ならば

きみは悪にでもなる

だけど悪はただの悪であつて悪の本懐ではない

それに私たちは、触ることはできなこし見るといもできなこ

仕方がないのでにせものに手を出すも

やがて空しくなつて

投げ出す

## 電腦の魔女か（前書き）

愛とこじつけのバーチャ・ゲイム、ロオル・プレイの主役は

## 電腦の惡魔か

まともな人ほど、狂気に惹かれていきます

自分以外のあまりの事象の多さに絶望や諦観を抱きます

狂っている人ほど、正常性や整然さを追い求めます  
自分がばらばらにならないように、真摯に生真面目に事象を縛り上げます

ということは私はまともです、まともな人間なんです。

事象を有るか無いか、で考える傾向が強い人はたぶん狂っている  
どちらでもいい、と考える人はたぶんまとも

狂っている人はまともな人を狂わせてしまおうとする  
まともな人は事象のさらに奥に沈みこんで、狂気をその中に焼き付けようとする

天使と悪魔の争いのお話はこういった人間の機敏に関することも  
元に含まれているんだろうけれど。

その正体はただの騙し合いだ。

悪魔は天使に化けて近づいてくるぞ！  
私たちは急いで悪魔に化けるんだ！

ときには天使に化けた悪魔に化けることも忘れずに。



私はマイクと拡声器を片手に演説をしました。

聴衆、道行く人は「何言ってんのコイツ」とい霧のようなもやを出しています。

私の話は、ほんのわずかとは言え、耳だけには聞こえてくるようだ。

聴衆の嫌悪感のような何かを感じた私は、聴衆のことを「毒されてしまっている」と思いました

それを感じた聴衆のような人たちは、私のことを「毒されてしまっている」と思いました

これすなわち、毒そのものが人の意思であります。人はみな毒に犯されています。

他者との交渉を思い返してみましょう  
あなたが他者を犯しているつもりが  
逆に犯されてしまっているのです。

毒は伝播して

あなたの生活にも、影響を与えます

そうしてますます

あなたの毒は腐り、臭い、別の毒に変質していくでしょう。

羊たちの沈黙（前書き）

ちくもくのうつじ

## 羊たちの沈黙

私たちは、思う

私たちは、自分勝手だと

私たちは、いつでも自分の思うとおりに物事が進むと考えてこむ

しかし物事は決して思うとおりにはならない  
私たちは憤慨し、何か別のものせいにする

なんて自分勝手なのだろう、私たちは

私たちに法は必要がなかつた

そんなものがあらうとなからうと

私たちは殺し、奪いあう

どんなに縄できつく縛らうとも

私たちは、そこから勝手に振舞える箇所を探し出す

人格は環境に因ると言われているが

そんなものに依らなくても

私たちは、絶対に自分勝手だ。

ほんのわずかでも抑圧されてしまつて

不満を抱くようならば

いつそ自分勝手に振舞つて、楽しく生きればいい

それは圧倒的な偏見と確固たる自信が必要だが  
それを持つことは、悪いことと言えるのだろうか？

さあ、自分のやりたいようにせつて  
やがては憎むべきものを食い殺せ。

立ち上がり、若人よ

私たちには、体制を切り崩しえる特権を持っているのだ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3721x/>

---

地下鉄の手記

2011年11月8日14時01分発行